

まえがき

塩尻公明は、私が最も深く尊敬している思想家である。塩尻の講義を受けたのを機縁に、シオジリアン（塩尻アン、塩尻のファンのこと）のひとりとなってほぼ50年を経過しようとしているが、その好きさは変わらない。否、齢を重ねるにつれて、彼の偉大さがわかり、好きさが増してくるように思われる。顧みれば、私の人生は塩尻の生き方に憧れ、塩尻の教えに従い導かれてきたという感を深くする。とくに迷った時や困った時や重大な決断をしなければならない時は、いつも塩尻の著作を読み返して、勇気と決断力とを得てきたように思う。おそらくこれからも、そうであると思う。私にとって塩尻の著作は、アラディンのランプであり、打ち出の小槌である。

塩尻公明は、戦前は真摯で誠実な教育者・教授として、戦後はデモクラシーと自由とを熱愛する政治学者として、また、「或る遺書について」等の「…ついて」シリーズの著者として全国の青年学徒の憧れの人生論者として、名声を博していた。しかし、逝去されて早や半世紀近く経った昨今、塩尻は忘れられた思想家である、という声を聞く。

私は、塩尻公明は忘れられた思想家ではないし、また、塩尻を忘れられた思想家にしてはならない、と考えている。塩尻はもっと見直され、その著作はもっと読まれ、もっと高く評価されるべきであると考えている。とりわけ混乱した現代にあって、人生の意義（「人生いかに生きべきか」）を真面目に追求している人たちには、塩尻の著作を是非読まれることをおすすめしたいと思う。私がそうであったように、必ずやよきヒントを得ることができるはずである（ただし、塩尻の著書のほとんどが絶版で、図書館か古書でしか読めないことは残念である）。

本書は、私の一連の塩尻公明の評伝に続く書物として執筆したものである。本書は、3つの文章から成り立っている。塩尻の生涯において大きな影響を与えた旧制一高時代からの恩師である河合栄治郎の生き方と比較しながら、塩尻

の生き方を考察した第1章を初めとして、第2章と第3章においても、人格主義思想に立脚した塩尻の生き方を紹介しようと企図したつもりである。塩尻の生き方は、“しなやかで、したたかな生き方”または“原則において頑固、対応において柔軟な生き方”と表現ができるのではないかと考えている。本書が少しでも読者の参考になることができるならば、私の大なるよろこびとするところである。

ささやかな本書であるが、これまでの塩尻公明研究書と同じく、過去と現在と未来の“塩尻アン”に捧げたい。

2013年8月15日

中谷 彪

塩尻公明と河合榮治郎
—他力と自力の人間学—

目 次

まえがき	1
------	---

第1章 自力と他力の人間学—河合栄治郎と塩尻公明の人間像考察— …… 9

はじめに 9

- 1 河合と塩尻の出会い 9
 - (1) 塩尻の河合先生論 9
 - (2) 2人の出会い 10
 - (3) 推薦で教職に就く 12
 - (4) 尊敬する恩師河合栄治郎 14
 - 2 河合栄治郎の人間像—その人と思想— 15
 - (1) 河合像に迫る 15
 - (2) 強烈な個性の河合の人間像 16
 - (3) 河合の性格分析—若干の補足— 20
 - 3 塩尻が河合を敬愛した理由 21
 - (1) 人間性の基底で共通する2人の個性 21
 - (2) 河合と塩尻の人間性的性格の共通点—強烈な個性— 22
 - (3) 塩尻の人生の先達としての河合 33
 - 4 塩尻の求道と到達点—塩尻人格主義の真髄— 34
 - (1) 天分と愛情の問題に悩む 34
 - (2) 刀葉林地獄を超えて「受取るの一手」へ 37
 - (3) 塩尻の求道生活の総括 42
 - 5 塩尻から見た河合の生き方 47
 - (1) 河合を高く評価した点 47
 - (2) 塩尻の河合批判 52
 - 6 河合と塩尻の生き方が教えるもの 61
 - (1) 自力本願の河合と他力本願の塩尻 61
 - (2) 補完関係か対照的な関係か 62
- おわりに 63

第2章 “よく生きること” についての人間学

—青年学徒に与えた塩尻公明の言葉—…………… 70

はじめに 70

- 1 塩尻公明という人—人生哲学を語る講義— 71
 - (1) 塩尻公明の略歴と思想 71
 - (2) 「如何に生くべきか」を語った塩尻の名講義 73
 - (3) 学生たちに尊敬された塩尻教授 76
- 2 「第一次出陣者壮行式 激励の辞」—生きて帰らんことを— 78
 - (1) 学徒出陣と学徒勤労働員の背景 78
 - (2) 旧制高知高校における第一次出陣者壮行式並びに激励会 80
 - (3) 塩尻公明の「壮行激励の辞」—生きて帰らんことを— 83
 - (4) 塩尻公明の「壮行激励の辞」の意義 84
- 3 「文科1年を工場へ送る言葉」 90
 - (1) 塩尻公明の学徒を工場へ送る言葉—よく生きるとは、よく死すること— 90
 - (2) 「送る言葉」の考察 92
- 4 塩尻公明の言葉の真意 96
 - (1) 塩尻の主張の核心 96
 - (2) 塩尻の言葉の底流にあったもの 97

おわりに 98

第3章 法と道徳と生き方の人間学—塩尻公明における遵法精神— …… 103

はじめに 103

- 1 政治と法律 104
 - (1) 政治と法律について考える 104
 - (2) 善き法と悪法を判定する 106
 - (3) 遵法精神を考える 108
- 2 権利と義務について 110
 - (1) 権利と義務の関係 110

- (2) 個人の権利と社会成員の義務 112
 - (3) 権利と自由の根拠 114
 - (4) 権利と義務についての注意点 116
 - (5) まとめ 118
- 3 矢内原忠雄と河合栄治郎の遵法精神と生き方 120
- (1) 矢内原忠雄の遵法精神と生き方 120
 - (2) 河合栄治郎の遵法精神と生き方 125
- おわりに—塩尻公明の遵法精神と生き方— 133

索引..... 137

あとがき..... 139

塩尻公明と河合栄治郎
—他力と自力の人間学—

